

ロタウイルスワクチン接種について

ロタウイルスとは

ロタウイルスは、世界のどこでもみられる、主に5歳未満の乳幼児に多くみられる急性胃腸炎の主な原因のウイルスです。

主な症状は、白色の下痢・嘔吐・発熱などで、ときに脱水、けいれん、肝機能異常、腎不全、稀に急性脳症等を合併することがあります。年齢にかかわらず何度でも感染発症しますが、乳幼児での初感染が最も重症で、その後感染を繰り返すにつれ軽症化していきます。

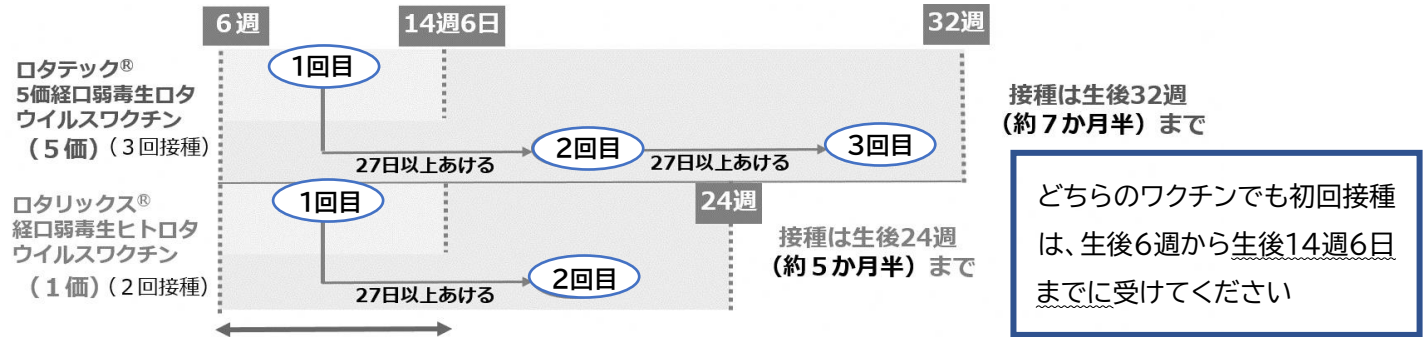


ワクチンについて

- ・このワクチンは、飲むワクチンです。
- ・ロタテック（5価生ワクチン）とロタリックス（1価生ワクチン）の2種類があり、同様の効果があります。医療機関で相談し、2種類あるうちからどちらか一方を選んで、必要回数を接種します。2回目以降も1回目と同じワクチンを接種します。
- ・ワクチンを接種することで、ロタウイルスの感染による胃腸炎を約80%予防し、重症ロタウイルス感染症の約95%を予防することができます。（ただし、ロタウイルス以外の原因による胃腸炎には予防効果を示しません。）

ワクチンの種類による違い

種類	対象者・標準接種期間	接種間隔・接種回数
ロタテック（5価生ワクチン）	出生6週0日後から32週0日後までの間にある者	27日以上あけて3回
ロタリックス（1価生ワクチン）	出生6週0日後から24週0日後までの間にある者	27日以上あけて2回



接種前の注意点

- 腸重積症の発症リスクが上昇するため、出生15週0日以降の初回接種はおすすめしません。(厚生労働省による)
- 赤ちゃんのお腹がいっぱいと上手にワクチンが飲めない場合があるため、接種直前(30分以内)は授乳を控えることをおすすめします。なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、わざわざ飲み込みが確認できていれば、ワクチンの効果に問題はありませぬ。(再度接種する必要はありません)
- 腸重積の発症を高める可能性のある先天性の消化管障害(メッケル憩室など)や腸重積症の既往があるお子さん、重症複合型免疫不全(SCID)のあるお子さんは、接種することができません。このほかにも、接種を中止したり、延期したりしたほうがよい場合もありますので、かかりつけ医師と相談してください。

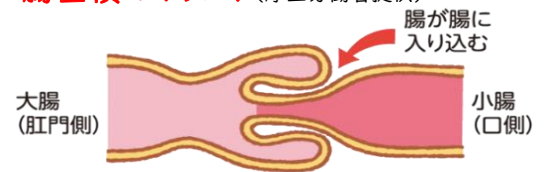
接種後の注意点

ワクチン接種後(特に初回接種後)1週間くらいの間は、腸重積症にかかりやすくなると報告されています。接種後1~2週間は、次のような症状に注意し、このような症状に気づいたら、すみやかに接種した医療機関を受診してください。接種した医療機関とは別の医療機関を受診する場合は、このワクチンを接種したことを医師に伝えてください。

このサイン、見逃さないで!

- 泣いたり不機嫌になったりを繰り返す
- 嘔吐を繰り返す
- ぐったりして顔色が悪くなる
- 血便が出る

ちょうじゅうせき
腸重積のイラスト (厚生労働省提供)



ちょうじゅうせきしょう

【 腸重積症について 】

- ・腸重積症とは、腸の一部が腸の他の部分に入り込み、腸が閉塞した状態のことです。ロタウイルスワクチンの接種にかかわらず、3か月から2歳くらいまでの赤ちゃんがかかりやすい、腸の一部が隣接する腸管にはまり込む病気で、速やかな治療が必要です。
- ・主な症状は、嘔吐を繰り返す、泣いたり、不機嫌になったりを繰り返す、ぐったりとして元気がない、血便（粘液と血が混じったような便）が出るなどです。
- ・腸重積症は手術が必要になることもありますが、発症後早く治療すれば、ほとんどの場合、手術をせず治療できます。

B 型肝炎ワクチン予防接種について

B 型肝炎とは

B型肝炎ウイルスは、血液や体液を介してヒトの肝臓に感染し、急性肝炎となり回復する場合と、慢性肝炎になる場合があります。また、症状が明らかにならないままウイルスが肝臓の中に潜み（持続感染）、年月を経て、慢性肝炎・肝硬変・肝細胞がんなどになることもあります。出生時または乳幼児期に感染すると持続肝炎の形をとりやすいことが知られているため、小児の場合は持続肝炎を防ぐことが最大の目的です。

対象者

生後2か月から1歳の誕生日の前日までの者

接種間隔 接種回数

1回目から2回目は27日以上あけて、2回目から3回目は、1回目から139日以上の間隔をおいて3回接種します。

1歳の誕生日までに3回打つ必要があるため、期限に気をつけましょう!

注意点

製剤によっては、ワクチン瓶のゴム栓に乾燥天然ゴム(ラテックス)を使用しているため、ラテックス過敏症のある場合は注意が必要になります。かかりつけ医と相談してください。

副反応

主な副反応は倦怠感、頭痛、接種部位のはれ、発赤、疼痛などの局所反応です。重い副反応として、まれですが、ショック、アナフィラキシー、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎、ギランバレー症候群などの報告があります。



ヒブワクチン予防接種(初回)について

ヒブについて

- ・ヒブ(インフルエンザb菌)は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの原因となるほか、髄膜炎、敗血症、肺炎など重篤な全身感染症を引き起こします。
- ・ヒブによる細菌性髄膜炎は、5歳未満の乳幼児がかかりやすく、死亡したり後遺症を残したりすることがあります。

対象者

生後2か月から5歳の誕生日の前日までの者



接種間隔 接種回数

生後2か月から6か月の間に接種を開始した場合:合計3回接種
1歳までに27日~56日の間隔で3回接種します。
(初回接種において、医師が必要と認めた場合は20日の間隔で接種可)

(注意)1回目を生後何か月に接種したかにより、合計の接種回数が異なります。
詳細は、"予防接種と子どもの健康"をご覧ください。
具体的な接種スケジュール等はかかりつけ医と相談してください。

副反応

主な副反応:接種部位の発赤、腫れ、しこり、疼痛などの局所反応、発熱(数%)
重い副反応:まれに、ショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病など

小児肺炎球菌ワクチン接種(初回)について

肺炎球菌について

肺炎球菌は、鼻やのどに感染し、中耳炎、副鼻腔炎などの気道感染症や、ときに化膿性髄膜炎や肺炎など重い全身感染症を引き起こします。特に、肺炎球菌による細菌性髄膜炎は、初期症状がかぜに似ているため判別が難しいだけでなく、死亡したり後遺症を残したりすることがあります。



対象者

生後2か月から5歳の誕生日の前日までの者

接種間隔 接種回数

生後2か月から6か月の間に接種を開始した場合:合計3回接種
1歳までに27日以上の間隔で3回接種します。

(注意)1回目を生後何か月に接種したかにより、合計の接種回数が異なります。
詳細は、"予防接種と子どもの健康"をご覧ください。
具体的な接種スケジュール等はかかりつけ医と相談してください。

副反応

主な副反応:接種部位の発赤、腫れ、しこり、疼痛などの局所反応、発熱(数%)
重い副反応:まれに、ショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病など

共通事項

予防接種健康被害救済制度について

詳細は診断した医師、沼津市保健センター
にご相談ください

入院治療を必要とする程度の
健康被害で医療を受けた場合

医療費・医療手当

日常生活が著しく制限される
程度の障害がある場合

障害児養育年金
障害年金・介護加算

死亡した場合

死亡一時金・葬祭料

接種にあたっての注意事項

★この説明書をよく読み、理解をしてから接種を受けるようにしましょう。

- ・子どもの体調をよく知っている保護者が連れて行きましょう。
- ・予診票は、医療機関にありますのでその場で記入してください。
- ・体温は、接種前に医療機関で測ります。
- ・予約制の医療機関がほとんどですので、実施医療機関一覧表で確認してください。



医療機関に行くときの持ち物

①接種券
(無料となります)

②母子健康手帳
(接種記録を記入します)

③保険証と子ども医療費受給者証
(診察の結果、接種できなかった時に必要です)

その他

- ・有効期限を過ぎると費用は全額自己負担となります。予防接種は有効期限内に余裕を持って接種しましょう。
- ・沼津市指定の医療機関一覧表以外の医療機関で予防接種を希望する場合は、接種前に別途お手続きが必要です。保健センターへ問い合わせるか、ホームページをご確認ください。
- ・重篤な疾患にかかっていたなど長期療養のため、やむを得ず定期接種の対象年齢・期間に予防接種をすることができなかった場合には、お問い合わせください。

予防接種と乳幼児健診は遅らせずに、予定通りに受けましょう

予防接種と乳幼児健診は、お子様の健やかな成長のために一番必要な時期に沼津市からお知らせしています。赤ちゃんの予防接種を遅らせると免疫がつくのが遅れ、重い感染症にかかるリスクが高まります。特に、生後2か月から予防接種を受け始めることは、お母さんからもらった免疫が減っていくこの時期の赤ちゃんを感染症から守るために、とても大切です。

出典：厚生労働省「新型コロナウイルス対策が気になる保護者の方へ」より一部抜粋

予防接種の受け方など、なにかわからないこと
困ったことがあったら気軽に相談してね!

【問い合わせ】

沼津市保健センター 055-951-3480

戸田分館 0558-94-3970

